

(4) FD 講演会（平成 30 年 12 月 10 日）

「大学授業におけるアクティブ・ラーニングの試み」

【企画の趣旨】

森和久先生は、椋山女学園大学の教授であり、附属小学校の校長も兼務されています。また、氏は、小学校の教員・校長を務めた後、教育委員会でも学校教育部長をされた経歴の方です。本講演では、限られた15コマの中で、最低限必要な知識の伝達を行いつつアクティブ・ラーニングを行うことで、いかに学生の資質・能力を高めることができるかを紹介し、元小学校教員の現場感覚による「現実的やりくり」を、「国語の指導法」の授業実践を中心にご講演していただきます。

【実施概要】

開催日：2018年12月10日(月)

開催時刻：16:40～18:10

場所：愛知教育大学 本部棟3階 第一会議室

参加対象：大学教職員・学生・一般

講演タイトル：「大学授業におけるアクティブ・ラーニングの試み」

講演者：森和久（モリ カズヒサ）先生

椋山女学園大学 教授

教職キャリアセンター主催
全学FD講演会
大学授業における
アクティブ・
ラーニングの
試み

森和久先生は、椋山女学園大学の教授であり、附属小学校の校長も兼務されています。また、氏は、小学校の教員・校長を務めた後、教育委員会でも学校教育部長をされた経歴の方です。本講演では、限られた15コマの中で、最低限必要な知識の伝達を行いつつアクティブ・ラーニングを行うことで、いかに学生の資質・能力を高めることができるかを紹介し、元小学校教員の現場感覚による「現実的やりくり」を、「国語の指導法」の授業実践を中心にご講演していただきます。

日時
2018年
12/10月 16:40～18:10
(受付：16:20～)

場所
愛知教育大学 本部棟3階 第一会議室

対象
本学教職員・本学学生・一般

講演者
森和久(もり かずひさ)先生 椋山女学園大学 教授
◆専門分野：教育学 学校教育に関する実践
◆研究テーマ：国語科教育、教訓論、学力向上

申込不要
入場無料

愛知教育大学
100-8302 愛知県春日井市日野1-1-1
〒464-8342 愛知県春日井市日野1-1-1
TEL: 0566-35-2717 FAX: 0566-35-0035
E-mail: info-staff@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

【プログラム】

時刻	時間	項目 (タイトル)	担当者
16:20～		受付開始	
			司会：砂川先生
16:40～16:45	5分	開会あいさつ	後藤学長
16:45～16:50	5分	講師紹介	伊東先生
16:50～17:50	60分	森先生 ご講演	森先生
17:50～18:05	15分	質疑応答	司会：砂川先生
18:05～18:10	5分	閉会あいさつ	野田副学長

【開催報告】

2018年12月10日 FD 講演会「大学授業におけるアクティブ・ラーニングの試み」を開催

12月10日（月）に、本部棟第一会議室において、教職キャリアセンター主催によるFD講演会を開催し、教職員・一般から37人が参加しました。

講師に椙山女学園大学の森和久教授を招き、「大学授業におけるアクティブ・ラーニングの試み」というタイトルで講演を行っていただきました。森先生は、小学校の教員、校長、また教育委員会でも学校教育部長を歴任してきた方であり、元小学校教員の現場感覚による「現実的やりくり」を、「国語の指導法」の授業を中心にご講演されました。



講師の椙山女学園大学 森和久教授

講演では、模擬授業を通じて学生たちに基礎的な国語の指導力を身に付けさせる授業について、その内容が詳細に説明されました。60人弱の受講生がある授業において、一人一人が必ず模擬授業を経験することを大切にし、その経験が実りあるものとなるよう毎年漸進的に授業改善を行っていることが紹介されました。

なかでも、ジグソー法を取り入れ、模擬授業で取り扱う教材についてすべての学生に一定の見解を得させようとする工夫は、少なからぬ人数の前で

授業をすることに対する示唆に富むものでありました。

それだけではなく、新しい学習指導要領への対応を授業に落とし込むために行っていること、またそのために教材をいかに用意していくかということなど、非常に緻密（ちみつ）で念入りな授業構成の方法を紹介していただきました。

具体的な授業の方法についてさらに詳細に聞きたいということを中心に、教材研究の深さや評価の方法に至るまで、活発な質疑が行われました。講演のはじめにいただいた、大学の授業が「型」とらわれるべきではないというメッセージは、参加者に強く届けられたようでした。

さらなる質の高い授業を実施するためにも、「大学授業におけるアクティブ・ラーニングの試み」は多様に展開していく必要があり、そのことを多くの参加者が改めて考える機会となりました。



FD講演会の様子

（教職キャリアセンター・FD部門・「主体的・協働的な学び」を实践できる教員の養成プロジェクト 国語教育講座 講師 砂川誠司）

（企画課 教育企画室 教育企画係）

FD講演会の様子

【司会（砂川誠司氏）】 時間となりましたので、これより教職キャリアセンター主催、全学FD講演会を始めたいと思います。

本日の司会を務めますのは、キャリアセンターのFD部門の砂川と申します。よろしくお願いいたします。

まず、開会に際しまして、学長先生より御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【愛知教育大学学長（後藤ひとみ氏）】 皆さん、こんにちは。

授業が終わって間もなくなので、若干おにくれてくる人があるだろうと見込んでいます。よろしくお願いいたします。

森先生は、皆さん、中には御承知かと思いますが、本学御出身なんですね。教科は国語ということですが、今、私の傍らに連携担当理事の西淵さんがいますけれども、もちろん西淵先生も本学出身なんです。今回、伊東先生方から、この講師に誰かいないだろうかという打診を受けて、西淵さんが紹介したようです。

お二人は、名古屋市教育委員会の際に、いわゆる先輩・後輩であり、上司と部下みたいな関係なんですね。椋山女学園のほうに、まだ在職中であつたと思うんですが、定年退職前に引き抜かれて森部長さんが行かれたという話を聞いていました。そういうことがあり得るんだと、教育委員会を経験した人たちが大学の担当にすることはあり得るんだということの知恵をいただいて、私としては、西淵さんが教育委員会の次長でしたので、教育長の下です。次長でしたので、その任を終えるのを待って、退職される時に本学に就任していただいたという流れがあります。

そういう意味で、お二人とも現職のときに大学院も進学されて、いろいろ専門をきわめながら教員養成として頑張っていると。

しかも椋山女学園は、本学の大学院のほうに、特に教職大学院のほうに積極的に学生を送っていただいています。今、できれば県内の私立大学の第一弾として、椋山女学園は、非常に好意的に愛教大との協力関係を願ってくださっているので、そういう方向で進めていきたいなというふうに準備をしているところです。

そういうこともありますので、ますますいい関係が続くように、きょうのお話をよろしくお願いいたしますと思います。以上です。

【司会】 ありがとうございます。

では、講師紹介のほうを伊東先生のほうからお願いします。

【愛知教育大学・理科教育講座教授（伊東正人氏）】 森先生のプロフィールを紹介させていただきます。

所属は先ほどもありましたとおり、椋山女学園大学教育学部子ども発達学科の所属でございます。

学歴は、昭和56年、愛知教育大学卒業でございます。先ほど聞いたところによりますと、小・中・高・大と野田先生と同級生というふうに伺っております。

職歴は、平成25年4月に名古屋市教育委員会学校教育部長を、それから平成27年に名古屋市立鶴舞小学校校長、平成28年度より椋山女学園大学教育学部教授に就任されております。

研究テーマは、国語科教育、教師論、学力向上でございます。

研究に関しましては、アクティブ・ラーニングに関する多くの論文を発表されております。

その他教育活動としましては、名古屋市立小学校、尾張旭市立小学校、現職教育講師、その他、名古屋市立星ヶ丘小学校学校評議員、名古屋市教員育成指標等にかかわるあり方懇談会委員を務められております。

本日はよろしくお願いいたします。

【司会】 それでは、お待たせしました。よろしくお願いいたします。

「大学授業におけるアクティブ・ラーニングの試み」

講師：森 和久氏（梶山女学園大学 教育学部 教授）

皆さん、こんにちは。

梶山女学園大学の森と申します。きょうはよろしくお願ひします。

今、御紹介いただいたように、私は昭和56年にここを卒業しています。当時は、大体当時の学生ってみんなそんなもんなんですけど、授業をいっぱいサボって、西淵先生はそうじゃなかったかもしれませんが、ろくに大学の授業に出ていない人間が、こうやって母校の先生方の前でお話をさせていただく、そんな羽目になるとは思いもよりませんでした。

大体、西淵先生から、ちょっとFDの講師やってくれんかと。ずうっと私の上司なんです、8年間教育委員会にいたときの。なので、はいという返事しか知らないんですね。だからついうかうかとはいってしまったら、こんな本当に立派な先生方の前で話すというようなことで、ちょっとびっくりするやら、いろいろ緊張するやらしています。

今、経歴を聞いていただいでわかるように、私、研究なんて全然大したことをやっていません。なので、大学の先生というよりは、完全にまだ小学校の先生なんです。梶山でも、大学の一応教員が本業なんですけど、土屋先生も前そうだったんですけど、兼業で小学校の校長をやっています。兼業とは言うものの、校長をやると、あそこは副校長がないですから、ずうっと校長です。だから、イメージは小学校の校長がたまに大学へ行って授業をしておる、そんな感じなんです。

なので、根っから小学校の先生が、大学の授業をやるとどんなふうになるんだろうと、それがあある意味、アクティブ・ラーニングの参考になればなというふうで聞いていただければありがたいなというふうに思います。

まず、アクティブ・ラーニングに関する基本的な考え方なんですけど、これは皆さん、嫌になるほどごらんになった文部科学省が学習指導要領改訂のときに中教審に出た資料ですけれども、どのように学ぶかというのが出てきたというのが今回の大きなポイントで、中教審で審議しているときは、アクティブ・ラーニング、アクティブ・ラーニングと盛んに言いましたよね。それが、改訂のときにはこの言葉は直接出ずに、「主体的・対話的で深い学び」という言葉に変わっています。

それはいろいろ考えがああるとは思いますが、この答申の中にこういう言葉がああって、「形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるものではない」と。アクティブ・ラーニングという言葉がああっと出てきたときには、小学校なんかは本当に、もともと大学の授業の改革で出た言葉なんですけど、だから出た当時は小学校の先生は、もうやっているもんね、私たちはと、そんなイメージだった。

でもやっぱりこうやって言われると、アクティブ・ラーニングをもっとやらなくちゃいけない。じゃあどんなことをやったらいいんだろう、こういうやり方がある、こういうやり方があると、すぐく型に走っちゃって。型じゃないだろうというのが出て、もうちょっと上位的な言い方で「主体的・対話的で深い学び」になったんじゃないかなと想像していますけど。

そのことでいうと、私も大学の授業なんかはおさそうだろうと。つまり特定の型で、例えば対話型の授業をすれば、グループ討議すればアクティブ・ラーニングだとか、そんなもんじゃないだろうと私は思うんです。きょうも私一方的にしゃべりますけど、一方的にだあっとしゃべったって、受講者が、学生が主体的にその授業に参加して、要するに聞いて、そして別に口に出して話さなくたって、その講義内容と自分の頭の中で対話をして、そして深まっていけば十分一方的な講義の授業だって主体的で対話的で深い学びになるはずなんです。

でもなかなかそれが難しい現状があるというのもあるんですけど、例えば私の大学時代を振り返ったって、やっぱり講義の内容をいろいろ取捨選択して考えて聞いている。私の場合は、さっき言ったように、ほとんど取じゃなくて捨のほうばかりが多かったんですけど、割合的にはね。でも、別の場所へ行って、マージャンパイなんかを取捨選択していったみたいな、そんな話はあるんですけど、それでも自分の主体的な意識があればいいだろうと思うんですけど、ただ、教育学部の授業ではちょっとそれと違うんじゃないかなと思うことがあるんです。

私は梶山の教育学部。、育学部の先生という立場になっているいろいろ大学の授業を考えてみると、やっぱり自分も考えないかなと思うことがあったんです。それは、まず学校現場での学びの場を考えると、子供がいて教師がいる。そこで教師は子供を支援しながら育てていく。子供にどんな資質・能力が必要なんだろう、どんな学び方が必要なんだろうと教師は考えて、その支援のあり方を考えている。こういう構造があるとして、教師もそういったときに、自分の資質・能力や、自分の学び方ということを全く考えずにいられるはずがないと思うんですね。つまり、自分が教師として資質・能力を高めていく。どんな学び方をすると自分が高まっていくんだろうということを自覚的にない人間が、子供に資質・能力や学び方を考えるってできないと思うし、それじゃいかんだろうと思うんですよ。

じゃあ学生はどうかというと、学生はこの教師を目指すわけですから、学生も同じように、この資質・能力、自分の学び方について自覚的じゃないとだめでしょう。しかも、大学での学びの場は、それを支援する教師、つまり私たちがいる場なんですから、この構造と同じことがここにも言えるでしょう。自分の資質・能力を高め、どうやって学んでいくかということを考えることなしに学生に接するという事はないでしょう。

もうちょっと話題を絞って授業ということになって考えたら、ここの関係の授業もどのような学び方がいいのか考えて、その学び方の一つとして、主体的・対話的で深い学びというのがあるとするならば、この関係はここの中だっただけなくちゃいけないというふうに思うんです。

例えば、資質・能力、これは中教審がいろいろなことを言っている中で自分なりにまとめて、これからの時代に必要な力はこういう力じゃないかと。こういう力そのものを今話すのは、今回の趣旨じゃないですから、こういう力が必要だと思ったら、これはまさに教師にとっても重要な力じゃないか。この力を自分でつけていこうということ抜きで子供を教えるということはないでしょう。だから、自分が主体的で協働的で深く学び自分自身を伸ばしていくということと、教えるということが結びついていなければいけない。まさに教師のアクティブ・ラーニングだし、これを自分を棚に上げては教えられないでしょう。自分はそうやっていないのに子供にだけそれを要求することはできないでしょう。

これはだから私だってそうだ。学生との関係でいえば私がそういう立場にあるんだということを、やっぱり思わずに教えることはできないなというふうに思ったわけです。

大学の授業で私が目指しているのは、当然、教える内容を理解するようにする。それから、そのことを通して、やっぱり学生にとってこれから必要な情報活用能力、表現力、協働する力等々、そういう力をつけたいな。と同時に、私がやっている授業が、将来、自分が教師になったときの授業の一つのあり方として見てもらいたいなと思うわけです。

これは、さっき言った小学校の先生だからこそ思うこと。全くの研究畑の方が、こういう授業方法があるんだと御自身の研究内容を学生に伝える、それは当然ある。でも私のように実務家教員、小学校の経験を多分買っていた、そういうことを買っていただいて来た人間が、授業を学ぶ授業で授業を学ぶ、わけがわからないことを書いてありますが、指導法の授業で、国語の授業はこうあるべきだよということを学ぶ授業、つまり国語の指導法の授業が、あの授業のやり方では全然授業を学べないじゃんでは話にならないですよ。指導法の授業の指導方法が

残念では話にならないですね、特に私のような人間が。何だかいろんなことを言っているけど、あの人の授業なんか聞いておっても全然おもしろくないし、全然ためにならないしと学生が思ったら、いかに主体的な学生であっても、少なくとも指導法ではだめじゃんと思われるわけにはいかないと、これは意地でも。と思うわけなんです。

そのことは、教育学部はなおさらというのは、教育学部は先生になることを前提としている学生なんです。だから、例えるとして適切かどうかわかりませんが、法学部の学生が法律を勉強するんだと。大学の先生の授業でずうっとやって、アクティブ・ラーニングだろうとなかろうと法律の勉強ができた。学習内容が定着した。それはそれでオーケーですよ、授業形態がどうであっても。でも、小学校の先生になろう、中学校の先生になろうという人が学ぶ、受ける授業は、さらにそれとは違う要素が入っているんじゃないかということが言いたいわけですね。

これは実は、京都大学の中原さん、溝上さんが前に研究した内容で、活躍する組織人の探求というので、大学から企業へのトランジションという研究があるんですけど、そこで大学ってどういう学生が伸びるんだろう、将来、社会に出て。そういうのを調査したんですね。簡単に言うと、この3つがある学生が社会に出てからあいつはええぞと言われるような学生になっていると。豊富な教室外学習、良好な対人関係の構築、積極的な課外活動への参加、明確なキャリア意識。

この社会に出て伸びる学生というのものの中に、大学の授業って全然ないんですよ、残念ながら。大学の授業でいい点取ることが全然結びついていない。この研究ではそういう結果が出ている。

この中で大事だと思うのは、明確なキャリア意識なんです。これは高校の研究も似たような研究があって、やっぱりキャリア意識というのが出ているんですけど、自分はどうなりたいという気持ちが明確である学生が伸びるよと。

ということは、教育学部の学生は、中にはうちの大学もかなり先生にならないよという人もいるんですけど、少なくとも先生になろうという学生にとってみれば、授業というものが、まさに教師に直結しているということをも意識させるということが大事なんじゃないか。

だから、私は教職論という授業をやっているんですけど、これは教職論の授業で学生に示したスライドですけど、一石四鳥をこの授業では目指しますよと。教職論というと普通これができればいいですよ、教職に対する知識を。でも、これを通して思考力、判断力、表現力をつけますよ。きょうはこれについては触れませんが、これもほとんどいろんな形態のアクティブ・ラーニング満載でやっているんですけど。これをやることによって授業の仕方をすることもできますよと。集団討議をやったり、グループである課題について、ほかのグループに行って教える教え方をちょっとみんなで検討して、じゃあ今度はグループばらばらにして、自分が講師をやってそれができるようにしようとか。ロールプレイもやったり、ポスターセッションもやったり、そんなことをやっているんですけど、そういう授業の仕方を知るということもできましょう、やりましょう。

それから、もう何か露骨な話ですけど、採用試験対策にもなるんだよと。だってこの場で授業して、集団で話し合っただけ、その話し合う力というのは、集団面接に直結するよということは授業で言うわけなんです。高尚な大学の授業の場で、今やっていることが採用試験にかかわるんだわみたいなことを言うのはいかがなものかと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、さっき言ったキャリア意識を絶えず喚起しながら授業をしていくと、やっぱり学生の意欲って違ってくるように思うんです。感覚ですけど。なので、こういうことをいつも意識しているし、意識させています。

次から国語の話をするんですけど、私は3年前に椋山女学園大学に入れてもらいました。国語の一応専門なので、国語の指導法というのを持っています。

これは後期だったので、前期がさっきも言った教職論をやって、どういうふうにやろうかなというふうに考えたこと、そして2017年と2018年も、今まさにやっていますけど、やっていること、この変化というのかな、自分なりに考えてどういうふうに改善してきたかなというようなことをお話ししたいというふうに思うんですが、まず国語の指導法で本授業の狙いとしていたのは、初任者として国語の指導案を書いて授業ができるようにする。

4年生卒業して初任者になった。何らかの形で指導案を書いて授業をしないかんですね。国語の授業をしないかんといいふうになったときに、最低限、初任者として、ベテランの先生とかじゃない、まあそれぐらいの授業できればいいよねというレベルのものにしたいなど。その中で国語の基礎知識を得るようにしたいなど。それから、自分自身の国語力をここの中で高めていくんだよと。それは、話し合いの活動とかいろんなことをするわけです。授業もしたりする中で、自分自身の国語力を高める。これはさっき言ったように、これも採用試験にも直結するんだよという話をします。

どんなふうに基本構想を考えたかという、まず指導案を書く授業ができるようにするとか基礎知識の部分で、知識・技能的に言えば、教材研究の仕方、目標の立て方、学習過程の書き方、評価の仕方、指導案の書き方、発問、板書、机間指導、こんなことを、これはどなたでも扱われると思います。

思考、判断、表現のところでは、目標達成のための学習過程や手だてを考える力、さまざまな児童の反応にどう対処したらいいのか瞬時に判断する、発問、指示を的確に伝える表現力、こんなものをつけましょうよ。

じゃあどういうふうにやるか。教材を当然使って具体的にやっていきますから、国語は、一応領域が、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に分かれていますので、それぞれの3領域の教材を取り上げましょう。低・中・高各学年の教材を取り上げましょう、バランスよくしましょう。これは普通に考えられますよね。

学習方法として、講義を聞くだけでなくグループでの話し合いをたくさん持ちます。それから、全員が模擬授業を行いましょうと。これを2つの方針として掲げました。

一応その当時の、2クラス持ったんですけど、多いほうが56人だったので56人が模擬授業できるように。指導法で模擬授業するかどうかはまた判断の分かれるところですけど、やっぱり指導案を書いて、書き放しで、指導案できたねでは、自分の指導案がどうだったかと振り返る場がないですから、やっぱりやらせたいんですね。なので模擬授業をしたいなど。じゃあ56人どうやって模擬授業するんだといったときに、このときはリレー形式の模擬授業というのを考えました。これは、うちの大学でほかの方もやっておられたので、リレー形式でやろうと。また後で詳しく話します。

教材はこんなふうに8つ使って、授業計画としてはこんな感じです。まず1時間目に国語の指導の課題をやって、教材の研究の方法を2時間目にやって、指導案の書き方をやって、狙いと指導計画、学習過程、ワークシート、これを3時間でやって、7時間から14時間目まで8こまの模擬授業をやって、まとめをやって、終わり。

だから、ここで3時間かけて各班がそれぞれの教材の指導案を作成したと。8つの教材を使って8時間かけてやって、8グループあるという設計ですね。そうすると45分の授業を、56人ですから7人になって、7分弱の授業を受け持つ。7人のグループで順番にどんどんやっていくわけですね。最初が導入のところを7分ぐらいやったら、ピピとタイマーが鳴って次の人にかわるみたいな、こういう授業。それはそれなりにおもしろかったし、学生もおもしろいと思えるようなアイデアをいろいろ出しながらやってくれました。

ただ、非常にやっていると、こんな課題が出ました。合意形成が難しいです。7人で1つの指導案なんですね。そうすると、合意形成も大事な勉強だからと言うんだけど、でもやっぱり授業って最後は自分の人間性とか人間力とか、そこに支えられているものが大きいもんですから、Aさんがやってもうまくいく授業を、あれすごいなと思って、僕がやってもうまくいくとは限らないですね、そもそも。自分のキャラクターとか芸風にや

やっぱり授業って影響するから、どこで選ぶかというのはやっぱり個人によるもの。それを7人全部一緒にの指導案で、一緒にの流れで考えなくちゃいけないから、やっぱり違うんじゃないかなと思って、でも仕方がないかという折り合いをつけてやっていることがある。当然ですよ。もちろん折り合いつけることも大事だよといつつも、ちょっと無理があるかな。

あと一応3時間分は、授業の構想に時間をとったわけですけど、当然足りないから、みんなで集まってどうやってやろうか話し合ってる時間が必要になってくるんですけど、7人集まるのは至難のわざです。皆さんよくわかると思いますけど。大学生がいついつ集まろうねと言ったって集まりやしません。そうすると結果的に一部の人間が数人で考えて、ほかの子にこうなったよみたいになっちゃう。というのが第1点目です。

もう一つ、1人の授業時間が少ないです。やっぱり7分では少ないですね。それこそ書くことのところで、はい、書いてごらんと言って机間指導すると、7分済んじゃったといったら、何か模擬授業をやっているかいないみたいなところ。

それから、授業を行う教材しか教材研究をしないと。このところで3時間かけて各班がそれぞれの教材の指導案を作成しています。だから、この3時間は8グループが並行してばらばらの教材の教材研究をしているんですね。これをばらばらにやっているわけです。そうすると、授業を受けて、事後検討会で反省会みたいな話をするときには、この教材についてみんなが考えることができますけど、指導案をつくっている段階ではもうここをやったらこの班はここだけなんです。それも効率が悪いなあ。そう思いまして、その改善点をどうするのかというところをこれからちょっと詳しく話したいと思います。

一応2017、2018でほぼ同じ形態でやっています。若干今はリニューアルしているところもありますが。

まず合意形成が難しい、1人の授業時間が少ない、授業を行う教材しか教材研究をしない、この課題に対してことはどうしようと思って、思い切って考えたのが班別同時並行模擬授業という形式の授業です。

これはどういうイメージかという、こういうことですね。一応6班なんですけど、6つの班が6つの場所ではばらばらに同時並行で模擬授業をしています。よく考えたら、全部、50人とか四十何人とか子供役要らないよなど。先生も、そうするとこれは1人か2人でやれます。だから1人の持ち時間はふえるし。多少隣のグループの声が邪魔になったりしますが、ほとんど支障ないですね。この教室は固定式の机でなかなかこれみたいに自由に動かせないんで、すごくそういう点はやりにくいんですけど、それも何とかやるやという感じで、班別同時並行の模擬授業というのをやることにしました。

その模擬授業のためにどういうことをやるかという、基本的にはジグソー法です。基本班で教材研究、指導案を作成します。この班をばらばらに崩して、ばらばら班で模擬授業をします。こんなイメージですね。これは多いほうのグループですから9人から10人と、ちょっと1グループが多いんですけど、少ないほうのこまだと7人から8人のグループになります。

これは1班。1班の人たちは、A、B、C、D、E、Fとそれぞれ分かれる班が決まっていて、この人たちが模擬授業の時間になると、こういうふうにはばらばらに分かれる。ここは学生数が多い時間なので、ちょっと2人のところが多くなって残念なんですけど、2人か1人で授業。2人のところはさっきと同じですよ。ちょっと打ち合わせが必要になります。2人の授業のイメージは、リレーというよりも、前後半入れかえ制のTTですね。2人でT1、T2が前後半入れかわるという認識。

これをどうやって設計するかってなかなか難しく、最初これを組むのだけでも何か頭混乱してわけわからなくなりました。必ず隣同士に、もとの1班なら1班の子が一緒になるようにしなくちゃいけないし、例えば、これはCグループなんですけど、Cグループの中には全ての1班から6班までのメンバーが入らなくちゃいけません。そ

れから、この人数は、必ずどんなに少なくても、2人のところが1個か2個は要ります。これは、残念ながら2人のところがあると言いましたけど、今度は逆に、例えば36人だったら六六、三十六でびたっといきますよね。それがいいかというと思う。1人欠席したら、もうそのグループはペアですもんね。だから、この子が休んだら、ここから1人びゅっと例えば持っていけるんですよ。だから、必ずそういう余裕みたいなのが要るように設計しないとイケないです。というこれはグループ編成。

課題について言いますが、合意形成が難しいというところは、1人または2人で指導案を作成するから、大分いいですよ、2人だとね。1人の時間が少ないというのも解決できるし、授業を行う教材ですから教材研究しないというのも、全ての教材を教材研究します。全員が全ての教材を教材研究します。そんなふうになりました。

それはどういうことかという、教材研究の時間と模擬授業の時間でワンセットです。1時間目は、基本班で教材研究して、目標を考えて、学習過程を考えます。2時間目は、ばらばら班になって、模擬授業をして、事後検討会をして、全体での報告、まとめをします。

という形なので、1時間目は、さっきの授業をこれで見ますと、この班が、例えば「一つの花」の模擬授業をするよとなっても、ほかの班も同じように教材研究するんですね、「一つの花」について。学習過程も考えるし、目標も立てるんです。それが今度は、授業するときになったら、授業者はこの人ですよと、そういう状態になるわけです。

そうすると、2時間要るわけですから、2時間掛ける6で12時間が最大だよなど。もっと細かくグループをつくれれば、1つの班が小さくなって、より活動はふえるからいいんですけど、全体の15時間、15時間というものの中にどれだけこの活動を埋め込めるかと思ったら、2時間単位だともう12が最大だよねと。残るのが3時間しかないということは、でも結構これもまた苦しいですよ。だって指導案のつくり方を教えないかんし、一応国語の基本的なことみたいなのも教える時間が必要です。そこら辺をどうしようという話なんです。

おいおい話していきますが、まず取り扱う教材は、1番、2番は前年度と一緒に。前年度の反省の中にちょっと書いていませんでしたけど、2016は、例えば「一つの花」という単元を決めたら、どこの場面をやってもいいし、自分でやりたいところをグループで話し合っ決めてようという形でやっていました。一応、領域とか学年は、バランスよく網羅できていますけど、本当に国語のことについて、今日的な課題について考えることが十分できていないというのも反省でした。

それから、このタイミングで学習指導要領が変わったのが出されました。そのことを触れないわけにはいかない。新学習指導要領がどういうふうになったのかと。だから、それがあつ程度系統的に教えることができるようにしたいなど。これも教材について考える、選ぶ理由になります。

国語の専門の先生もいらつしゃる中で恐縮ですけど、一応学習指導要領、国語科の改善点として解説に出されているのは、語彙指導、情報の扱い方、考えの形成、我が国の言語文化、漢字指導、これらの5項目を充実、または新設しましたというんですね。だから、このことには絶対に触れたいなど。それに合う教材を引っ張つてこよう。

まず新学習指導要領の改善点についてやっぱり学ばなきゃいけない。学年のバランスを考えないかん。領域分、指導間のバランスを考えないかんということで、いろいろ、これも6教材ですから、悩んだんですけど結果的にはこんなふうになりました。

語彙指導と漢字指導はなかなか、授業に乗せてもいいんですけど、ちょっと難しい面もあるし、これは最後のまとめの時間にやろうと、扱おうということで、模擬授業から省きました。

新設された情報の扱い方とか、より充実していこうという考えの形成、それから我が国の伝統文化のところに対応する教材を、学年ばらけるようにして持って行って、それぞれの領域が、読むことの説明文、読むことの物語とか古典、話す、聞くというふうにはばらけるようにしました。

そうすると書くことがないなということで、書くことについては、そうするとじゃあ3年生の「気になる記号」という調べたことを報告する文章を書くんです、それを持ってこようと。これも実は、余り詳しいことを言えませんが、指導要領が大きく変わったところの一つとしてあるんです。取材とって何か考えるところを、どういうふう考えたらいいかというところが変わったところなので、重点としては出てきませんが、これも加えて教材を考えたということです。

そうすると、こんなふうにする教材が6つ定まると。だから、やりたい内容と、学生の数と、そして教材のバランスみたいなものを考えて今の6つが決まったということです。

じゃあ、この授業の留意点はどういうふうかという、まず学習指導要領の指導は順次行おうと。前年度の学習指導案の作り方は1時間、90分とって、1時間でやったんですね。でも、そうやっている時間の余裕がないというか、そんなにとれる時間がないのと。

それから、どうしても指導案をこうやって書くんだよという授業は、私の伝達型の授業になりやすいから、そうになると学生はすぐ眠そうな顔するんですね。やっぱり活動をぼんぼん変えていってあげないと、すぐ眠たくなっちゃう。非常にいい子たちなんですけど、うちの学生、いい子たちなんですけど眠たくなっちゃう。眠そうな顔を見ておるとつらいですからね、こっちもね。私の話はずまらないんだなと思うと、やっぱり嫌ですから、どうするとかぼちちりになるかなということの一つで、順次やっていく。

だから、6時間ある教材研究の時間の中に埋め込むと。そうすると1回目の教材は、指導案が全部パーフェクトな状態で作れるような知識がまだないんですね。なくてもいいかと。学習の流れをとりあえず考えることができれば。そこは割り切ったわけです。何かとると何か捨てないかんんですね。そのやりくりが本当に悩むところなんですけど、そのやりくりを今聞いていただいているということです。

それから、前年度は、どこをやるかは学生に任せましたけど、学習指導要領の改善点とかかわらせなくちゃいけないから、ピンポイントでかわるところを指定しました。だから、こういう指導計画の中の第何次をやるんだよということももうこっちが指定。

これは去年も一緒ですけど、個人から班に行って全体に行くと、こういう活動は基本にしました。

それから振り返り、後でもちょっと見てもらいますが、振り返りは必ず行おうと。こういう指導の留意点です。

15時間、この結果どうなったかという、ガイダンス、総論が2時間、教材研究、指導案作成と模擬授業、事後検討のワンセットが6グループ、6教材で12時間、そしてまとめで1時間と、そういうように学生の人数と、教えたいことがあると総時間数を勘案して模擬授業の数を決定したと。

結構この6は、自分でも我慢しているというか、正直言うと。もうちょっと本当はやりたいですし、こっちの2も我慢している。本当はもうちょっとやりたいしというところで、ちょっと本当にやりくり大変なんですけど、折り合いをつけるとこんな感じかなあというふうで15時間を考えました。

まず、教材研究の回ですけれども、具体的な授業の流れはどういうふうかと。まず教材の指導計画を教師がばつと伝えます。そして、2つ目は個人で教材研究をする。まずは自分でやりなさい。そうしたらそれを班で共有して、情報交換してごらんと。次に、じゃあそういう教材だとしたら、どんな目標がいいかなと考えようと。次に、実はねという感じで新学習指導要領の改善点について私が触れ、作成の仕方もちょうとやり、じゃあ指導案、きょうの分をつくりましょうということで、個人がつくって、班で共有する。

次に、全体の上で考えた授業方法を班ごとに発表します。これは、模擬授業をする班は除きます。模擬授業をする班は、自分の今の考えの途中を言っちゃうとネタばれになるから、模擬授業をする班にいいアイデアを教えてあげようという目標というか目当てを投げかけて、ほかの班の子たちが考えた授業方法を発表すると。

この班も、実は、大分戻っちゃって申しわけないですけど、小グループにしています。これちょっと見にくいかもしれませんが、区切りが入れてあるんですよ。学習指導案のこととか教材研究のことを話し合うにはこの人数は多過ぎますから、この単位、小グループで1単位にしました。そこで話し合っ、このグループで1人がこのグループに対して、こういう授業を私たちは考えたよということを伝えると、そんな形です。というふうですね。これは教材研究の回の流れです。

ちょっと具体的にお話をします。これはもう、ついこの間やったばかり、4年生の物語文の教材で、「一つの花」というのがあるんですけども、まずその指導計画を提示しますよと。提示例。全体をつかんで、場面ごとに読んで、本時は第3場面。それで「一つの花」の紹介、それからほかの物語の紹介、こういう単元の流れの中の8分の4だよと。

教材研究してみようと。教材研究は、まずはとにかく教科書をしっかり読みましょう。読んで疑問に思ったこととかどんどん書きましょう。自分で考えるのが大事だよ、文献調べるのが大事だよ、人と交流するのが大事だよという話がしてあります。

自分で考えるのは、お薦めの方法ということで、教材を縮小コピーして、余白に疑問に思ったこと考えたことを書き込む。学生には教科書を買わせているので、教科書に書き込む。自問自答が大事だよと。

それから、文献研究はちょっとなかなか今回できないので、指導書のコピーを渡して、それを参考にする程度です。

交流のところは、みんなに聞いてほしいこと、聞いてみたいことを出し合うんだよというふうにやっています。

視点として、国語の場合ですから、あくまでも一読者としてまず読んでみよう。子供の目だったらどういうふうに読めるだろう。どうやって指導するかなという観点で、教師の目から見たらどうだろうというようなことを説明し、いろいろ問い、なぜを何回も言ってごらんとか、こういう言葉を違う言葉に変えたらどうだろうと、この表現がなかったらどうだろうと、時間的に飛んじゃったところはその間に何があったのか、書かれていないことを考える、こういうようなことを考えるといいよというような説明をし、それからこの場合は物語文でしたから、物語文の着眼点、こんなものがあるよということも説明をし、そして、はいどうぞ、やっごらんさいという感じですね。

それをやって、班で情報交換もし、だったら、皆さんが考えた特徴がある教材だったら、どんな目標がふさわしいだろうねとやるんですけど、もちろん教師が自分の独力で考えるのはいい方法だけど、まず初任者として最低レベルで目標を考えるためには、まず学習指導要領から探すんだよと。そうすると、この場合は、3、4年生の読むことの中にはこういうのがあるから、とりわけ今回は紹介文を書くというところで、感想や考えを持つことと、このところが中心になるねと、こんな押さえをしていきます。こうやって目標をつくると。

この中で、この目標を、読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つことというこの項目は、学習指導要領の新しい重点の中に考えの形成を重視すると。これは、書くことにも話すことにも出てくるんですけど、これが大事とされているよと。これはこういうことだよという説明を入れると。学習指導要領の重視の点もこうやって入れるよと。

とすると本時のポイントは、感想や考えを持つために文章の構造や内容をどのようにつかむかだよと。例えば題名の意味とか、これぐらいのヒントを与えて、じゃあと言って指導の流れというか、指導は考えてごらんということとで1時間。

90分の中でこんだけやるので、かなりハイペースです。教材研究をやって、話し合っ、目標を考えて、押さえるところは押さえて、それから、はい、指導案を書いて。指導案を書く時間が10分から15分なんですね。いつも学生は、だから、なかなか最後までたどり着きませんというコメントも来るんですけど、相当できるようになりますよ、これ。時間区切ってやると。

前時までに行っていることの確認はしないかんで、指導案を書かせる前に。ごめんなさい。全体の把握をして、第1場面やって、第2場面やっているんだよという説明して、はい指導案を書きなさいですね。それから、指導案の形式も説明しなくちゃいけないので、これはこのときのですから、大体形ができ上がっているんです。こういうふうだよという説明をすると。

それで指導案作成。個人で作成、小グループで検討、全体で発表、こういう流れになっています。

それで、さっきの話なんですけど、なかなか結構書けるようになってきます。だから、実際、小学校の先生って毎回毎回6時間分の指導案なんか書いていられませんよね。だから、指導案ということよりも授業の構想をいかに早く立てるかというのは物すごく大事な力だから、もちろんじっくりやるような授業というか、じっくりやるときは何日あっても足りないんだけど、短い時間でやる練習も必要だよということを言って、そういう言いわけをつくって、短時間で無理やりやらせているという感じです。これはごく一部ですけど、ばあっと下まであるA4・1枚ぐらいの指導案を、だから15分ぐらいで書くということをやっています。

さて、模擬授業の回になったらどうかというと、前時の復習を私がします。模擬授業を30分やる。この30分というのは、実は小学校の45分の授業を30分でやろうというお約束、設定です。あんだけの小グループで、しかも大学生相手にするんですから、実は45分要らないです。30分で十分できます。45分分の授業。なので、ちょっと模擬授業の本物に近いという点では大分違うかもしれないですけど、それでいけるなというのは実感はしています。

その後グループでの事後検討。授業をやったばらばら班で今の授業どうだったかみたいなの。それで各グループの報告を10分。まとめと振り返りを私がやると、こんな感じです。

事後検討会の行い方は、よかった点、改善する点いい点をワークシートに記入させて、授業者の言葉を聞いて、質問をやって、よかった点、改善する点をやろうと。

なかなかこれが今の悩みで言うと、まだまだだめですね。話題を絞って深めようというんだけど、なかなか話題は絞れないですね。これも後でちょっと言いますけど。

授業の様子はこんな感じですね。さっきもちらっと見ていただいたように、ばらばらのところでやっています。

黒板どうするんだという話ですけど、このホワイトボードを2枚与えていて、これを黒板がわりにしましょうと。若干無理がありますけど、何とかやっています。

こうやって教室の側面を使って、画用紙を張ってやるパターンもあります。

この班は、磁石が使えるからいいんですけどね、このポジションは。こんな例もあります。

それから、学生は自分なりにワークシートをつくってやっていますね。

事後検討会って、こういうふうにグループの中に。

授業者が司会者をします。授業者が司会者をしていろいろ話を聞くと。授業者がその話し合った結果を全体の場で報告します。

ここでの報告が、いつも何か時系列でしゃべるんですよ。私は最初あれやっ、と、まずみんなに音読させてとか、あれやっこれやっこれやっ。よかった点はこういうことを言ってもらって、改善する点はこうと。話が長いし、まとまりがないからいかんとさん言いますよ。ポイント絞って言えと。そういうのもまさにあなたたちの国語力なんだから。

でもなかなか改善しないんですけど、ちょうど先週、この子は、これはパワーポイントじゃなくて実物投影機なんですけど、そのものが映る。実物投影機に自分がつくったワークシートとかを見せながら説明するんですけど、ホワイトボードとかべちゃんと置いて。この子は、こういうシートをつくってきました。よかった点というのがあるって、手で書けるように。授業の流れはもう事前に考えてあるから、打ち出して持ってきてまして、こうです、こうですと、おお、それはすごい成長したなみたいな、いいこと考えたなあ。

ただ、よかった点が見にくいかもしれません、絵本を用いたこととか、児童を褒めていたとか、子供の表情を見ていた、そんなような。こんなことはもういいとずうっと言っているんですよ。でも声かけがしっかりしていたとか、明るい表情でよかったとか、そういうよかったことがいっぱい出るんですよ。遠慮もあるんでしょうけどね。中でなかなか、いいことを言ってあげなくちゃいけないから。これをもうちょっと変えたいというのが今の課題であります。

でもこうやってみんなの前で、とにかく要点をちゃんと上手にプレゼンテーションしろという場を与えると、やっぱり学生は成長するし、いろいろけちつくと、こうやって改善をするということもやっていくんだなということですね。

こんな授業を今まさにやっているんですけど、これは去年の授業アンケートの結果です。総合的充実度、この授業は総合的に見て充実していましたかというアンケートの設問なんですけど、「そのとおりである」が一応79.5%で、「どちらかといえば」が残り全部で、これが教育学部の平均なんですけど、それよりはいいなど。

でも私の授業としては余りよくないんですこれ、実は。通常はもっといいんですけど。自慢してもしようがないんですけど。何でかなとちょっと去年はショックだったんですけどね。もうちょっといいだろうと思ったら。

ただちょっと救いは、この思考・判断が、この授業を受けて獲得、あるいは向上したと思う項目で、思考・判断を高くつけてくれている。知識・理解が61.5%、思考・判断が74.4、態度・志向性、これはようわからんですね態度、23.1%。技能・表現が53.8%。なので、思考・判断を重く受けてくれたのは、私、授業者の意図には合っているなど。たださっき言ったように技能・表現、あなたたちの国語力をつけるんだよというところは、課題があるなと思っています。

ちょっと細かいところで、真ん中辺を出しますけど、理解しやすかった、進路の適切さ、理解しやすいような工夫、それから配付資料などの適切さ、声の大きさなどの注意の仕方、対応、こんなのもまあまあで、これは3項目、教員が自分で質問項目を選べる欄があるんですよ。初めて使ってみたんです、このときね。自分で興味あったんで。授業力向上に役に立ったかという53.8%、まだまだですね。だから自分自身の国語力向上の役に立ったか、38.5%、全然だめですね。それから、学習形態の有効性、いろんなばらばらの模擬授業ってどうかと、これは評判いいですね、84.6%。

ということで学生アンケートも、残念な面もあるし、しようがないなという面もあるし、まあまあよかったなという面もあるというところですね。

これを受けて、ことし改善しているんですけど、その意識は多少、ここの国語力のところを高めようとして発表のこととか何かをちょっとうるさ目に言っているという感じなんです。

それで、今思っている課題は、学生の国語力を高めるためのステップをもうちょっとちゃんと取り入れなくちゃいけないなど。ただ発表しろと言っているだけなので、もうちょっと順番に発表のさせ方もステップアップさせていくような、毎回毎回、課題を持ってやらせるといいだろうなど。

それから、課題の難易度なんです。ちょっと難しいんですね。考えの形成だとか、古典の中の課題とかって、あれはどっちかという新学習指導要領で変わった部分なので、初任者として一番ベーシックなところの授業をするというよりはちょっと難しくなっているので、その課題の難易度はどうしたらいいのかなと。

とりわけ現行指導要領で作成された教科書は、新の部分はないんですよ、そうっていないんですよ。だから、もちろん今は移行措置期間だから、現場の先生たちもできるところはどんどんやりなさいと言われていたからやらなくちゃいけないんですけど、現場の先生でも余り、無頓着の人のほうが多いですよ、どっちかといえば。旧学習指導要領でつくられた教科書をそのままやっている。でも旧学習指導要領でつくられた教科書を使いながら、新学習指導要領だったらどういう部分ができるだろうと考えなくちゃ本当はいけない。それをちょっと学生に要求しちゃっているのは、難しいなと思いつつも、それをちょっと簡単にするというか、もうちょっと学生にわかりやすくする工夫がこれから必要だなというふうに思っています。

というのが国語の指導法の私のアクティブ・ラーニングの取り組みの概要なんですけど、最後に、このアクティブ・ラーニングを成立させるためにどんなことに心を砕いているかということをお話したいと思います。これは、本当にしようもないことです、どっちかという。だから、ああ、やっぱり小学校の先生だなというところだと思うんですけど、幾つかお話をします。

まず心がけたこと。目標を明確にし、振り返りを行う。必ず自分で考えることから始める。いきなりグループで話し合うなんてことは絶対しないということです。

それから、全員が責任を持ってアウトプットするようにする。例えば全体場で発表するような人も、同じ人ばかりではだめと。順番に。模擬授業も去年よりもうんと1人の役割を大きく。

それから、時間当たりの活動量を多目に設定する。さっき10分でこれやれとか、15分でこれをやれというのも、ちょっと無理かなぐらいのところで作る。それが基本的なアウトラインですね。

それから班編成、これはちょっと言いましたが、小グループと大グループ、そしてばらばら班というような班編成を工夫したと。複数の人が授業ができるようにというのが、欠席しても困らないような対応も考えてやりますよと。

それから、コメントを返すと。さっきの指導案の下のほうですけど、学生は必ずコメントを書いて出さないとい。その授業の振り返りですね。どんなところがわかったとか、どんなところが自分に力がついたとか、こういうところがまだわからんとか、そういうのを書いて出せよと。それに、私は必ず毎回こうやって書いて。くちゃくちな字ですけど、1年目は字コンプレックスがあるもんですから、知っている人はよくわかっているんですけど、字を書きたくないんです、本当に。それをこれは全部パソコンでやっていたんです。パソコンで打って、差し込み印刷してびゅっと入れて、でも嫌になってきて、さすがに。こんな面倒くさいことやっていたらもたんなんて思って、一応字で書いて。ごめんねと、読みにくいけどと言いつつながら字で書いてる。

それから、こうやって指導案を書いて出して、授業者の指導案にはとりわけアドバイスをいろいろ、これだと困ると思うよとか、そんなのを書いてあげるんですけど、もらったやつを翌週返したんでは間に合いませんから、だから授業者の分だけは、赤入れたら、大抵赤はその日のうちにやる。ちょうど今は5時間目ですよ、この学校も。うちも3と5なもんですから、5が終わってから6時10分から必死でこれをやって、それからうちへ帰るんですけど、なかなか大変なんです、これね。9時になったり、10時近くになったりするんですけど、頑張ってる。

それで授業者には、その部分をPDFにして、ジャーナルって配信、メールみたいながあるので、そのシステムを使って送るようにしています。そうすると気のきいた授業者は、ちゃんと送ってきた返信のジャーナルを見て、こういうことを工夫するともっといいかなとか。気のきいていないやつはちっとも見いへん。あれ開封したかどう

わかるんですよ、教員から。人が送ってやったのに読めへんというやつもいますけど、こうやって返してあげるといことですね。

それから、物の配付なんです。本当にばかみたいでしょう。大学の授業でこんなことは、話をするのも本当に申しわけないことですが、物の配付が、授業のプリントと、後で出てくるコメントのプリントと、それから授業に必要な資料みたいなもの、そういうがあるので、数枚になります、最低でも2枚か3枚入ります。学生には書いたやつを、今度はばらばら班にして配らないかんですよ。ばらばら班にして配るの大変なんですよ。最初本当に困っていましたが、時間がかかって。あほみたいに時間がかかるなと思って。

それで考え出したのがこの封筒システム。封筒の裏表に、1班はばつと名前が書いてある、A、B書いてありますね。裏にはB班とか、あるいはばらばら班の班で班の名前が書いてある。学生のプリントには、1Aとか1Dとかこれを書けと。1班で集めたプリントをくりっと見ると、A、B、C、Dが書いてあるので、A、B、C、D、A、B、Cと並べる。この順に並んでいると、1班を取り出して、ほいほいと仕分けが簡単にできる。仕分けたやつを今度は、封筒をひっくり返してBの班はBの班に入れていくと。そういうシステムをとったら、画期的アナログなシステムなんですけど、非常に配付が楽になって、時間短縮につながります。あほみたいな話でしょう、本当に。

それから、話し合いの組織化というのは、なかなかうまくできないんですけど、心がけてはいます。班の話し合いを聞いて話題にすべき内容を絞り込むと。だから一応机間巡視ちゃんとするんですよ。グループでいろいろ話し合っているから。ぐるぐる回っていて、話を聞いていて、あの話題を拾うといいなと思ったら、やっぱり話題をそこに絞り込んで、ちょっと誰々さん、今の話を言ってみてというような、グループで代表の子が発表するんですけど、それだけでは足らずに、この話題について、あの班でもこういう意見が出たから、ちょっと誰々さん言ってみてみたいなことをすると。

あとは発表をしますので、グループの代表が。必ずコメントを入れてあげると。こういうところでよかったねみたいな肯定的な評価ですよ。そんなことをするということですよ。

それから、毎回毎回の授業をやるんですけど、個人には赤でコメントを入れているんですけど、全体的なことをやっぱりきちっと伝えたいなと思って、その授業を受けて学生の様子がどうだった、そのことについてこういうコメントが多かったけど、これについてはこうなんじゃないかみたいなことを、1枚つくって、次の時間に必ず。次の時間の最初は、このコメントについて触れていくということです。

これは、「一つの花」のちょうどあさって配るプリントなんですけど、これはどっちかという教材研究的な内容をいろいろ載せて参考にしてくださいみたいなんですけど、学生の意見に対してのコメントだったり、いろいろします。これをだから毎時間配るといことですよ。だからそれは、この1時間の授業で、どんなことが次への課題として残ったかなといことを自分なりに考えた上で、これを伝えたいなといことを1枚のプリントにして配ると、そういうことですよ。これもじっくり触れる時間があるときとないときがあるので、読んでおいてねといって終わるときもあります。読んでおいてねだと、ほとんど読まない人もいるといことは思いますけどね。

アクティブ・ラーニングを成立させるためにといことよ、まとめて言うと、資質・能力、学習内容、教材、学習方法をデザインすると、やりくりするといことですよ。一遍つくったらおしまいじゃないか。まさにカリキュラム・マネジメントだと思んですけど、PDCAでつくったカリキュラムを振り返るんだよといふうにな言われていますけど、そういうのをやっぱり自分もやらなくちゃいけないなといことを思うわけですよ。

それから、教室の雰囲気を含む細かい基盤整備。細かい、本当にあほみたいなことも含めて、でもそういう細部といことかな、そういうことの工夫をしているよといことを見せることもやっぱり、冒頭に言ったように教育学

部の授業では大事なんじゃないかということで、ある意味、学級じゃないですけど、授業に来てくれたら、一つの学級として学級経営能力、そして授業力というものを相対化する。批判的に見てもらってもいいので、相対化する一つの手がかりとなればいいなというふうに思います。教室の雰囲気を含む細かな基盤整備。

なので、もうそろそろ終わりますけど、別の授業、教育実習の事前・事後指導というのもやっているんですけど、事前指導で記録の書き方ってあるじゃないですか。あれを説明するときに、じゃあ練習で教育実習記録の授業を見たというつもりになって、私がきょうやった授業を観察記録に書いてごらんとやったんですよね。そうしたら、まず明るい雰囲気でやっているのがよかったとか、基本的には褒めてくれているんです。何でかという、観察実習記録は基本的によいしょしないかんと。これは大事なことで、それはそうですね、教育実習で指導教官の先生の授業を見て、あそこはかがなものかと思うと書いてあかんよと、思っても書いちゃいかんよということになるので、一応よいしょするんだよと言いながら書かせたもんだから余計いろいろ、雰囲気がよかったとか、目をちゃんと合わせて、様子をつかみながら授業をしているのがよく伝わるとか言ってくれているので、ちょっとはよかったのかなということ 생각합니다。

まさに大学でのアクティブ・ラーニング、ありがとうございましたという猫ですけど、アクティブ・ラーニングというにはほど遠い話かもしれませんが、一つの参考にしていただければと思います。

多分このこまは、10分までだと思いますけど、1時間ちょっとでいいよと西淵先生からは言われているので、ちょうど1時間10分のところでお話を終わりにしたいと思います。本日はありがとうございました。（拍手）

【司 会】 どうもありがとうございました。

少し時間がございますので、質疑の時間に移りたいと思います。

質問がある方は挙手にてお願いいたします。

個人情報を含むため削除

個人情報を含むため削除

個人情報を含むため削除

個人情報を含むため削除

【司 会】 だんだん熱くなってきたところなんですけれども、時間がやってまいりました。

閉会の挨拶を野田先生のほうからしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【愛知教育大学 副学長・教職キャリアセンター副センター長（野田敦敬氏）】 本来ならば西淵センター長がやる場所ですけれども、おまえがやれと言われたので、同じようにはいということでございます。

最初、御紹介がありましたように、森先生とは小学校、中学校と同じ学校で同じ学年でしたので、ただたくさんクラスがありましたので、一緒のクラスになったことはないんです。高校で分かれましたが、何か大学でまた出会ってという形で、それから1年職場も一緒でした。自宅も2人とも60年間ずっと同じところに住んでいますので、ちょこちょここういう格好じゃないときにばったり出会ったりします。

そんな関係ですけれども、実は森先生のことを私もよく知っているので、きょうは想定外でした。もうちょっと何か、ICTにお詳しいので、そっちの話が出たり、それから椋山女学園大学はお金があるので、きっとそういう設備もうちより整っているんで、そういう話になるのかなと思ったら、そうではなかったので、ちょっとおやつとは思いました。

ただ、この模擬授業というのは、我々教育実習、実はあしたもその会議があるんですけれども、そこで所感として書かれてくることで、もっと大学のほうで模擬授業をやってほしいということがしょっちゅう出てきます。

それから、県内の代表者の皆さんが集まっていただく会議が1月末にあるんですけれども、そこでもやっぱりそういうのが出てきますので、いろんな授業の中で模擬授業を取り入れていくということは非常に大事だなと思います。

多分本学では、今でいう言い方の教科研究だとか教科教育だとか、それから教育実習の事前指導で取り組まれているんだと思いますけれども、さすが学校現場を熟知されている森先生ですので、その方法もいろいろ工夫されているなど。

森先生、国語で今日は話があったんですけど、実は本学の卒業は教育学教室なんです。それで国語免許ということで、しかもそのとき教育学教室では教育方法で卒論を書かれている。古い方は御存じだと思いますけど寺西和子先生のところですので、そういった国語だけではなくて、教育方法も学ばれていると。それがこの大学の授業にもあらわれているなというふうに感心をいたしました。

実は、新しくなりました図書館に模擬授業室が用意してありますので、ぜひそこもどんどん使っていただきたいし、それから303でしたっけね、303は全面ホワイトボードにしてありますので、例えば10人のグループで模擬授業をやるときにも対応できるように、大きな部屋ですのでなっていますので、そんな部屋もぜひ今後御活用いただければなというふうに思います。

それから、最後、4のところ、アクティブ・ラーニングを成立させるためにということで、名古屋市教育委員会では「なかまなビジョン」というのをつくりまして、全員の先生に配信をして、最初目標を立てると、それから自分の考えを持たせると、対話をする、まとめ、振り返りをするという、余りパターン化したくないというのが私の本音ですけれども、それを配っております。また、それを先生の中でもかみ砕いてみえるなというふうに思いました。

最後に、やりくりをするという言葉が非常に印象に残りまして、本当にきっと大変な忙しい授業になっていると思いますけれども、その中、PDCAサイクルを回して、やりくりをして、工夫をしてみえる、それは大変参考になりました。

きょうは御多用の中、ありがとうございました。（拍手）

御参加された皆さんもありがとうございました。以上で終わります。

【司 会】 以上をもちまして、教職キャリアセンター主催、全学FD講演会を終了いたします。どうもありがとうございました。

当日の配付資料

平成30年12月10日

愛知教育大学FD講演会

大学授業におけるアクティブ・ラーニングの試み

椋山女学園大学教育学部

森 和 久

1 アクティブ・ラーニングに対する基本的な考え方

大学の授業はなおさら「型」にとらわれる必要はない。しかし教育学部の授業は・・・

2 国語の指導法2016

リレー形式模擬授業の試み

3 国語の指導法2017・2018

前年の反省に立ち授業を改変。学習内容，学生数，総時間数を勘案しての「やりくり」は・・・

4 アクティブ・ラーニングを成立させるために

カリキュラム・マネジメントと学級経営能力，授業力